

北海道新幹線の建設促進について

北海道部会提出

北海道新幹線は、我が国の高速交通体系の骨格を形成する上で極めて重要な国家的プロジェクトであり、国全体の経済の発展及び生活領域の拡大並びに北海道の振興に欠かすことのできない社会資本である。

すでに全線開業している他の整備新幹線は、関係する地域の経済発展に大きく貢献していることから、北海道新幹線についても、札幌までの全線開業により、その効果が最大限に発揮され、北日本ひいては日本全体の発展にも大きく寄与するものと確信している。

こうしたなか、令和6年5月8日に鉄道建設・運輸施設整備支援機構は、2030年度末の開業は極めて困難であるとの報告を国土交通省に行ったが、沿線の関係自治体は、開業を見据えたまちづくりを進めているところであり、開業延期が与える影響は広範かつ甚大である。

については、北海道新幹線の建設促進に向けて、次の事項を強く要望する。

記

1. 新函館北斗・札幌間の早期完成に向けて以下の措置を講じること。
 - (1) 工期短縮に向けた検討を徹底的に行い、一日も早い全線開業を実現すること。
 - (2) 開業時期を含めた今後の見通しについて早期に示すとともに、沿線自治体等の関係者に対し、工事の進捗や有識者会議での検討状況等の丁寧な説明・情報提供を行うこと。
2. 貸付料など幅広い観点からの更なる建設財源の確保や、財源措置の拡充による地方負担の軽減を図ること。
3. 青函共用走行区間において、さらなる新幹線高速走行の早期実現を図ること。
4. 新幹線の開業効果を高めるため、新駅周辺地域や広域幹線道路などの整備に対する社会資本整備総合交付金等の重点的な配分を行うこと。
5. まちづくりや防災等に配慮した構造物（軌道・駅舎等）の設計及び建設を行うこと。
6. トンネル等走行時における移動通信環境の基盤整備を図ること。